

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 28 年 2 月 19 日)

衛霊公 第十五

【九】子貢 仁を為さんことを問う。子曰く、工 其の事を善くせんと欲すれば、必ず先ず其の器を利くす。是の邦に居るや、其の大夫の賢者に事え、其の士の仁者を友とすと。

子貢が仁の道を実現する方法を孔子に聞きました。「工」は職人です。孔子が答えるには、職人仕事というものは、よい仕事をしようと考えたら、まず道具の手入れをよくすること。「器」は道具です。「利くす」は、研いでよく使えるようにする。

仁を実現するための方法を子貢が聞いたということが問題で、子貢は口八丁手八丁という人ですが、頭の切れる人物。仁を実行するための方法を普通に聞かず鋭く孔子に聞いてきたということなので、孔子は職人がよい仕事をするためには刃物をきちんと手入れをしてよく研ぎなさいと言った。孔子から見ると子貢は切れ者なので、よく自分を磨きなさい。素晴らしい人物とよく交わって自分を磨くようにしなければ、子貢は切れすぎるから、他人を見下してしまうので、そういうことはしないようにということを込めて答えた。子貢が聞いたということがポイントだと思います。よく刃物を研ぐように自分自身を磨き続けられれば子貢は国家の中では、素晴らしい人物になるだろうと。

優れた人物を見出して、その人間に仕えることが大事です。その仕える中で素晴らしいと思える人物を探して、その人間と友人になりなさいと答えています。

私は石川梅次郎先生から教えていただいた中で、師匠が亡くなった後は誰に聞けばよいかとお聞きしたところ、自分と同じようなレベルの友人を探しておきなさい。同じようなレベルの友人がいれば師がいなくなっても、友人同志で切磋琢磨をしあうことによってお互いにレベルが上がっていくものだ。必ず同じようなレベルの人を探し、交わりを深くしなければいけないと教えていただきました。これもまた今の時代、やはり政治家でみると、自分の師匠だと思えるような人物が今の政治家はいるのかなと思います。色々な派閥が出来ていて、その派閥の中のトップは持ち回りでやっている。素晴らしい人物だからトップに推すのではなくて、持ち回りで「次はお前、次はお前」ということをやっているように見えます。自分の手本になる人が上にいないということが今の政治家は氣の毒だという氣がします。この間は、イクメンの議員さんが奥さんのお腹が大きくなったので、「私は育児休暇を取る」と宣言しましたが、週刊誌がすぐその議員が他の女性と不適切な関係であるとスッパ抜いたら、さっさと議員を降りてしまいました。派閥の領袖が教えなかったからだ

という話が派閥の中でも出ているようですが、とんでもない話です。どこの派閥かは覚えていませんが、今の派閥の領袖は軽いです。でも、奥さんのお腹が大きい時に他の女性と不適切な関係はもってはいけませんって、いちいち昔は教えていないと思います。とにかくレベルがどんどん落ちてきています。ここら辺の話はある程度以上のレベルの人でないと役に立たない。レベル以下の人が政治家になるので、これは何とも言いがたしです。会社の中でいけば、東芝がアホなことをしました。嘘をついてはいけない。決算する時に誤魔化してはいけないということも、いちいち教えねばならないのでしょうか。あれほどの大企業が馬鹿なことをしますし、政治家も同じようなことをします。

自分で自分のことを振り返ってみるという言葉がありますが、振り返る気持ちにならない人達もたくさんいるということを、今回の「子貢、仁を問う」で感じました。ここで言えることはお手本になる人がいなければ、切磋琢磨をする友人をお互いにみつけようというところで、止めておくのがよいでしょう。